

# クリエイトひがしね ニュース

発行 NPO法人クリエイトひがしね

999-3796 山形県東根市中央1-5-1 タントクルセンター内

TEL 0237-43-1155 [www.higashine.org](http://www.higashine.org) 発行責任者 菊地 和博



## 「子どもの育ち」をみつめて

若者支援担当理事 土屋 常 義

先日、庄内地方に住む知人から「タントクルセンター良いところですよ」「けやきホールやあそびあランドに子どもを連れて何度も行きました。大好きな場所です」という言葉を聞きました。この思いがけない言葉を聞き、多方面で子育て支援の先駆的な活動に取り組んでいる当法人に、関わらせていただいていることの嬉しさと誇らしさを改めて実感しました。

「遊育」と「共育」の2本柱を掲げ、様々な現代的課題に対し、創造性豊かな企画で迅速に対応していること、さらに当法人の子育て支援を通じた幅の広い社会貢献活動に、法人の一員となった今も驚きの連続です。現代は、便利で快適、物の豊かな時代の中で、子どもたちが群れて外で遊ぶ姿もほとんど見られなくなりました。その結果、子どもの成長過程で大切な「自然体験」や「社会体験」の場が少なくなり、「人との関わり方」や「他を思いやる心」など自然と身につけられる機会まで失われた感があります。加えて、未だ

出口の見えないコロナ感染症への対策から、コミュニケーションが制限される中、子どもたちの社会性が育ちにくくなるのではないかと感じています。

このような状況においても、当法人は逆境から立ち直る力「レジリエンス」を発揮し、諦めずに工夫を重ね、今できる形での施設運営に取り組んでおります。

私は、その姿に「チーム クリエイト」の真の絆の強さと熱い思いを感じています。

子どもたちの歓声の上がる施設は、多くの人たちへ勇気を与えてくれます。どんな困難な社会情勢の中においても私たち大人が、子どもたちに意識的に活動の場を提供したり、関わり続けていったりすることで、人と人が支え合う社会の素晴らしさを実感してもらえと思っています。

新しい生活様式で過ごす日々はしばらく続きそうですが、「子どもの育ち」を第一に考えて、当法人に関わる一人として今後も努力していきたいと思っています。

# カウンセリング力を高める連続講座

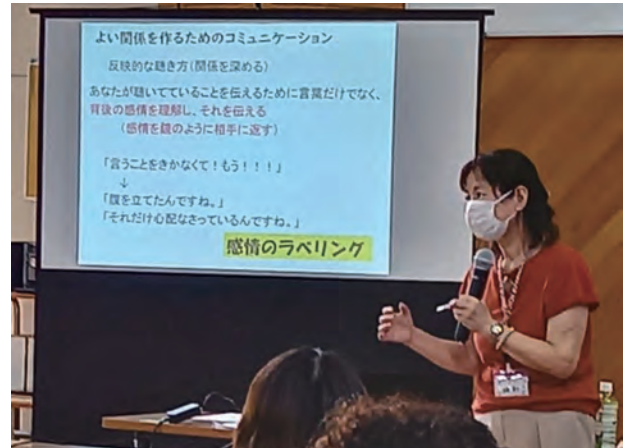
事務局長  
村山 恵子

職員の人材育成と資質向上をめざして、毎月第2水曜日の休館日を利用し、職員研修を開催してきました。

子どもや保護者、地域の方々の言葉を受容し、その心に共感しながら対話を深めていくことができるよう「カウンセリング力」のアップを目的に、上級カウンセラーとして実践されている佐藤節子先生を講師にお招きし、カウンセリングの知識や技術取得をめざしています。職員たちの講座の感想と気づきを紹介します。

★「すごいね」と言うばかりだったが、ジャッジせず、決めつけず、感情（気持ち）を鏡のように返すようにしたいです。例外を探すことは気持ちの整理もでき、客観的に冷静に分析できると思ったので、来館者から相談されたときに実践できると思いました（E）

★批判しないことを原則とするブレインストーミング、ネガティブな感情にも寄り添い、関係を深めていく反映的な聴き方、持っている資質を活かして改善策を考えていく未来志向のカウンセリング法など、学びが沢山ありました。これらは何れも、一人ひとりの人間を肯定することで、この肯定が安心感を産み、安心感が信頼感に結びつき、教育相談が成立するのだろうなあと思いました。その点で、教育相談の根本は人間愛なのではないでしょうか。（Y）



★ストレスマネジメントについて学びました。自分のストレスケアを行えるようになること（自分に優しくできるようになること）が生きる上で重要であることが理解できました。ストレスを感じた時に溜め込まずにhelpを出せる人になること。また、毎日無意識に行っている呼吸はとても大切なバロメーターであり、ストレスを感じていると浅い呼吸になってしまうので、ゆっくり呼吸を意識的に行い、特に息を吐くことに集中すると良いことが体験を通して実感できました。（N）

★私もいつも「～すべき」「～ねばならない」の考え方をしているタイプでしたので、先生のお話を伺って「目から鱗」でした。なかなか、考え方を考えることは難しい事だとは思いますが、「自分らしく生きている自分は大丈夫」と思いながら、少しずつでも前進したいと思いました。「14の心をもって、人の話を聴く。」ことを努力します。（S）

★開かれた質問と閉じられた質問の使い分けがいつも人によって変えるのが難しいと感じていましたが、これからもっと意識しながら使っていきたいです。（M）

## ファミ・サポから

入院することになりお子さんのあずけ先をどうしようと思っていたところ、登録していたファミ・サポを思い出し連絡をくれたAさん。Aさんの入院期間中、協力会員が保育施設へお子さんを迎えに行きお父さんの仕事が終わるまで協力会員の自宅でおあずかりすることになりました。

協力会員はお子さんの「やってみよう」を大切にしてくれ、懐中電灯を見つけて家の中を探検ごっこしたり、時にはピアノを弾いてピアノごっこをしたり一緒に過ごしてくれました。

Aさんも自分がいない中で我が子が楽しく過ごしていると知り安心してくれたようです。



後日ファミ・サポに立ち寄ってくれたAさん。「おかげで大変な時期を乗り越えられました」と元気な姿を見せてくれました。これからも家族に安心を届けられるファミ・サポであり続けたいです。

（細谷祐子）



# 子育て支援の輪を大きく

家庭教育・若者支援プロジェクト委員会（準備会）

委員長 三浦 通夫

「遊育」と「共育」を理念に掲げ、幅広い子育て支援を推進している当法人ですが、新たな特色を打ち出すべくプロジェクト委員会を立ち上げました。支援の在り様を強化したいのは、日々の子育てで苦悩している親御さん、そして、生きづらさを感じ、自分らしさを取り戻せる居場所を探している子どもや若者の皆さんに対してです。

プロジェクト委員会では、将来の夢と当面の目標、両方を見据えて議論を重ねています。夢は、あそびあランドの一角に、自身の成長や交流を求める子どもと大人が集う施設を設けること。その施設にフリースクールを設置し、生きづらさを感じている子どもや若者に心安らぐ居場所を提供します。そして、自然との触れ合いや遊びを通して、人間としての土台づくりを行っていきます。自然と一体化した遊び場ならではの強みを生かしていくわけです。また施設は子育て中の皆さんの交流の場、相談の場にもなります。常駐する職員は、子どもや親の支援にあたるだけでなく、各種サークルや大学、企業等とつながり、学びの場や体験の場を用意していきます。

このような将来ビジョンを描いていますが、実現には相当な時間と労力が必要になるでしょう。では、先立って動き出せることはないのか、それが現時点における議論のテーマです。現在のところ、有力になっているのが、大学生と子どもたちとの交流活動です。大学生からボランティアを募り、夏休みを中心に多様な活動を展開していきます。あそびあランドで考えた場合、大森山やザリガニ池を舞台にした冒険活動、自然の素材を生かした創作活動、学生の特技を生かしたワークショップ、そして、大学生から助言を受けながら行う自由研究や工作等、子どもたちにとっては新鮮で刺激的な体験になるはずです。また、保育士や教員を目指す学生にとっては、子どもとの接し方を学ぶ絶好のチャンスとなることでしょう。



もう一つ視野に入れているのがフードバンク活動です。これは、市の行政指針となる「第5次東根市総合計画」の中で打ち出している“貧困対策”につながります。食品の収集にあたっては、タントクルセンターやあそびあランドに市の内外から多くの人々が集うという強みを持っていますし、各企業とも、食品ロスを減らしていかなければという機運を高めています。ただ課題も少なくありません。特に、衛生面には十分に気を配る必要がありますので、保管場所・方法が大きな課題になります。また、集まった食品を、本当に必要としている人にどう届けるかも今後、検討していかなければなりません。

外には、当法人の運営方針になっている「遊びと教育の一体的実践」を推進するために“遊び”の有効性を更に啓発、意識化させる取り組みを実践していきたいと考えています。また、昨年度取り掛かった「子育て応援ブック～乳幼児編～」を早期に完成させて、妊婦さんに配れるようにしたいと計画しています。

以上が主な進捗状況ですが、新たなクリエイティブがしねを創造するために、皆さんからのアイデアや要望を是非お聞かせください



## 支援センター

◇「寝返りができるようにになりました」「ずりばい・ハイハイをするようになりました」「1歳になりました」と成長のご報告をいただいています。また「コロナ禍でも感染症対策を講じながらサロンを開催してくれていたことが嬉しかった」という声もありました。

## （けやきホール

◇けやきホールで汗だくで遊ぶわが子を見てママが

「ここが開いて、よかったあ」

## 総合受付

◇総合受付の前を通らずにけやきホールへ入館するようになり、  
「こんなに大きくなりました」  
「お久しぶりです。みなさんお変わりないですか」と、わざわざ総合受付に立ち寄りお声をかけてくださいます。

## あそびあランド

◇園児、小学生、中学生と子どもたちがごちゃ混ぜになって遊んでコミュニケーション能力がUP。子どもたちに負けず、親子ごちゃ混ぜになるあそびあランドです。

# 楽楽クラブと共に

会員 和泉昭子

私が友達から誘われて楽楽クラブに入ったのは、平成20年の4月、早や十数年が経ちました。

毎月第二金曜日にタントクルセンターや地区の公民館に集い、春はハイキング、蒸しパン作り、老人クラブと一緒にあそびあランドで子どもたちにコマ回し、お手玉けん玉、おはじき等の昔遊びを教えながら一緒に楽しい時間を過ごしていました。

生涯学習フェスティバルでは、毎年「明日があるさ」「川の流れのように」「世界に一つだけの花」などたくさんのお話ソングを披露してきました。当日は直前まで懸命に練習し成し遂げた達成感をみんなで分かち合いました。

コロナ禍で活動が一時休止となりましたが、今年の夏から感染予防に留意しながら、グラウンドゴルフを始めました。また、パラリンピックのポッチャ競技金メダリスト杉村選手の得点技「スギムライジング」に触発され、指導者をお迎えしてポッチャを楽しみました。

今後の活動に希望を込めて、健康に留意しながら、楽楽クラブを盛り上げていきたいと思えます。



## 事務局の窓

令和3年6月に行われた オンラインによる第18回通常総会にて、平成29年より監事の大役を担っていただきました寒河江賢一氏と鹿野敏幸氏のお二人が任期満了となり退任いたしました。後任に田中和夫氏、名和則子氏が就任されました。寒河江、鹿野両監事にはこれまで当法人をあたたかく見守りいただきありがとうございます。また、田中、名和新監事には今後ともよろしくお願ひします。コロナ禍の中での異例の総会での選手交代ですが、今年は一日も早く膝を突き合わせた会議が出来ることを願っています (Y)

# けやきジュニア合唱団

保護者会長 工藤みどり

けやきジュニア合唱団は、現在6名で活動しています。コロナの影響でお休みになっていた練習は、ようやく11月から再開する事ができました。今は3月にやまぎん県民ホールで行われる県少年少女合唱祭に向けて練習中です。

マスクを装着しながらの練習は、少し息苦しいのではと、大人達は心配しておりましたが、子どもたちはすぐに慣れ、今では楽しそうな声を部屋いっぱいに響かせています。そんな私達は現在、歌が大好きな仲間を大募集しています。合唱を通じて、年齢の違うお友達と絆を深めてみませんか。



**団員募集券**

お友だちがまってま～す

練習日 土曜日 (月三回)

午後4時～5時30分

会場 東根公民館

会費 月2000円 (2ヵ月目から)

兄弟で入団はひとり1500円

## 編集後記

◆年が明けて3年目を迎えた新型コロナ感染。このまま終息するのではとの期待をもたせた昨年末の感染者数から一転して、変異株が急速に感染を拡げています。3年間という時間は、中高生にとって学校生活ほぼすべてといえる貴重な期間です。子どもたちがこれから生きていく上で、失われた3年間になるのか、稀有な体験としてプラスにすることが出来るのか、子どもの成長にかかわってきた私たちにも問われていることです。これまでの研修の成果がいよいよ正念場を迎えている気がします。(M)